

「withコロナ」における富士登山の楽しみ方

日本のシンボル・富士山が7月1日の山梨側に続き、10日には静岡側が山開きした。2年ぶりの山開きである。山梨側の登り口、吉田口登山道は1日、コロナ禍にあいにくの悪天候も重なり、登山者はまばらで結果的にゆったりと登山を楽しむ姿が見られた。以前は御来光を拝むために山頂付近で大渋滞が起きるなど、日時によっては密になることもあった。ゆえに山梨県は今夏、1合目下駐車場など3カ所で入山者の体調をチェック。山小屋は完全予約制で、自動体温測定器や寝室にパーティションを設置するなど感染症対策を講じながら登山客を受け入れている。

元来、富士山は独立峰による圧倒的な美しさに加え、噴火を繰り返す荒々しさをも持ち合わせていたことから神の住む山、霊峰として崇められ、それが富士山信仰、富士登山とつながった。信仰の対象、芸術の源泉となった類の見ない名山だったことが、世界文化遺産に認められた要因である。にもかかわらず、一説によると、夜間に一気に山頂を目指す弾丸登山に挑む登山者も増えているという報告もあり、富士山を尊ぶという敬謙な気持ちが薄れつつあるようにすら感じられる。

山梨側の山開き日当日、入山した弊紙記者に話を聞くと、大雨で御来光や山頂が“お預け”となっても「山は逃げない。また来よう」と、満足げに下りる登山者の表情があったという。心の余裕があってこそ、安全に登山を楽しみ、雄大な自然の素晴らしさを感じ取れるのではないだろうか。ぜひお越しの際は、時間にも気持ちにも余裕を持っての入山をお願いしたい。ちなみに、富士山吉田口旅館組合はHPで山小屋16軒から見える御来光の写真を掲載している。麓の山梨県立富士山世界遺産センターでは登山道を上る動画を見ることもできる。

霊峰富士を尊ぶ方法は登山だけではない。山梨県立富士山世界遺産センターを訪れることも、withコロナ時代に富士山を愛しみ・敬う手段の一つであろう。

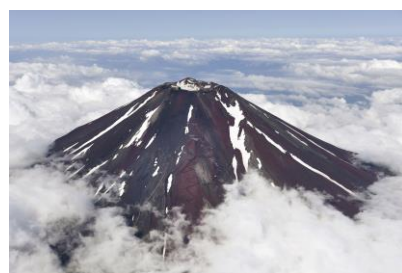
山梨日日新聞社 デジタル推進局デジタル営業部副部長 佐藤真



今夏は登山道が閉鎖されている富士山



山開きの日、まばゆい御来光を脇に登山道を歩く登山者＝富士山5合目



梅雨の晴れ間に雲海からそびえる富士山